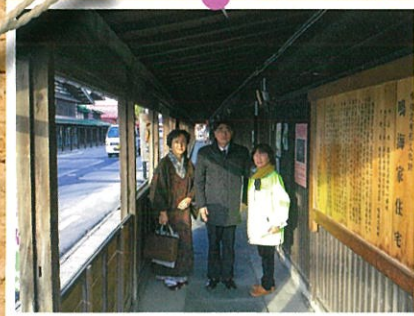


希望輝く山形を創生します！ 東北の元気は山形から！



黒石市の町家を活かした地域づくりを視察



岩手県山田町の災害公営住宅の建築状況を視察



東京有楽町にある北海道アンテナショップを視察



大曲の花火を通じた地域活性化について意見交換を行う



銀座にある山形県アンテナショップを視察



道の駅「めざみの里いいで」に設置になった免税店の状況を視察



東海大学森久保先生と温泉地の活性化について意見交換を行う



青森県黒石市の「ぼっこ靴」の店舗にて



寒河江市内に設置された山形県公文書館の状況を視察



山形テルサで行なわれた自衛隊入隊予定者激励会に参加



きくち文昭 県議会レポート

4月9日発行
14頁

平成28年 No.11

発行・編集 山形県議会議員 菊池文昭 〒990-0065 山形市双月町 250-3
TEL.023-641-7060 FAX.023-641-7067 E-mail f-kikuchi@mqc.biglobe.ne.jp

観光の振興で本県の魅力を発信します！

安政2年(1855年)にオランダから江戸幕府に寄贈された木造蒸気船は「観光丸」と名付けられ、その2年後に同じような蒸気船「咸臨丸」が太平洋を渡りアメリカに寄港しました。

観光の語源とされるものの中で中国の易経に「観光之光 利用賢于王」(国の光を観るは、もって王の賢たるによろし)とあり、他国の制度や文物を視察し見聞を広めることと解釈できます。

これまで観光というと物見遊山や休暇・福利的な意味合いに捉えられがちですが、これからの観光本県においては大きな経済効果が期待される重要な成長産業であり、国内はもとより海外からの観光客の増加が見込まれ、農産品の生産・販売や加工、お土産品・宿泊や物流とそれらにかかる雇用の拡大などが期待されます。

新年度も引き続き商工労働観光常任委員会への所属になりました。これからも観光振興を通じ、山形県の持つ自然と伝統や文化・おもてなしの心を国内外に通用する山形県観光の確立に向け取り組んでまいります。

山形県議会議員 きくち文昭

知ッとお情報1

山形県教育センターでは不登校・いじめ・進路等々についての相談を受け付けております。

教育相談ダイヤル **023-654-8181**

月～金(平日)は8時30分～20時30分まで
土・日・祝日は8時30分～17時30分まで

いじめ相談ダイヤル **023-654-8383**

24時間受付しております

保護者のみなさん お気軽にご相談ください

知ッとお情報2

夜間(19時～22時)の急病の相談は…

小児救急電話相談窓口

県内のプッシュ回線および携帯電話からは

#8000

ダイヤル回線・PHSからは
023-633-0299

しょうにきゅうきゅう

◎相談時間:午後7時から午後10時まで(3時間)
◎対象者:県内に居住又は在住する15歳未満の子ども及びその家族 ◎主な相談内容:子どもの発熱、嘔吐、下痢などの急な病気についての相談 等

大人の救急電話相談窓口

県内のプッシュ回線および携帯電話からは

#8500

ダイヤル回線・PHSからは
023-633-0799

おとなきゅうきゅう

◎相談時間:午後7時から午後10時まで(3時間)
◎対象者:県内に居住又は在住する大人及びその家族 ◎主な相談内容:発熱、頭痛、腹痛、めまい、吐き気などの急な病気についての相談 等

知ッとお情報3

もし、あなたが悩みを抱えていたら…一人で悩むより、まず相談を。

★自殺予防ののちの電話

相談受付時間 **023-645-4343**

13時～22時

★フリーダイヤル **0120-738-556**

毎月10日はフリーダイヤルの日

24時間(8時～翌日8時)電話相談を受け付けています。

菊池文昭の県議会での役職は次のとおりです

- 商工労働観光常任委員会委員
- 安全・安心対策特別委員会委員
- 山形県都市計画審議会委員

県政についてご意見・ご質問等がございましたらお気軽にお寄せください

TEL.023-641-7060 FAX.023-641-7067

E-mail:f-kikuchi@mqc.biglobe.ne.jp

- 自宅: 〒990-0065 山形市双月町 250-3
- 県議会: 〒990-0023 山形市松波 2-8-1 県議会北棟 4階
- TEL.023-630-3211(代) 内線4404 FAX.023-630-2833



平成28年2月 一般質問答弁要旨

航空・宇宙産業への参入拡大への支援を推進すべき！

菊池 航空・宇宙関連産業への参入拡大について県としても応援すべきであるが現状はどうか？

商工労働観光部長 ①参入意識の醸成、②技術力・競争力の強化、③受注機会の拡大、により参入拡大に取り組んでいます。

具体的に①は、本県企業からなる「山形県航空機産業地域戦略研究会」を中心に、関連メーカーの視察会や業界の最新動向等の情報提供を行っています。②は、高い技術要求に応える設備整備や、国際規格の取得支援を行っています。また、共同受注する新たな一貫生産体制づくりに向け、参入企業の連携を促進しています。③は、「東北航空宇宙産業研究会」のもと6県が連携し、業界の市場情報の収集や展示会への出展、商談会の開催などに取り組んでいます。



酒田港の貨物量増加への備えを図れ！

菊池 酒田港の貨物取り扱量が過去最高を記録した。对中国向けの紙おむつを中心に今後も増加が見込まれる中で埠頭の整備や陸路の整備も必要である。加えて荷捌き機能の強化も課題と考える。今後の貨物量増加の対応について岸壁等の整備をすすめるべきであるがどうか？

県土整備部長 今後2年間で、コンテナヤードの拡張と、荷役作業の効率化の取組を進めます。コンテナヤードの拡張は、今年秋頃までに完成する予定です。荷役作業の効率化は、平成29年秋頃までに、コンテナゲートとコントロールセンターを新設し、荷捌き作業をより効率的に進めるために、荷役機械に係る使用料改定を来年度より実施します。多くの企業に酒田港を使って頂けるよう、ポートセールスを積極的に展開する一方、防波堤の延伸や改良、二船同時の荷役作業を可能とする岸壁の延伸、新庄酒田道路の整備などより広い視点からの物流基盤の強化が必要であると考えます。今後とも、酒田港の現在の状況や将来展望をしっかりと伝え、政府への施策提案等強く要望します。



酒田港の活性化を目指し、外航クルーズ船誘致に取り組むべき！

菊池 海外から本県観光等に来県するときは道路・空路・海路を使う。「西の堺東の酒田」と言われた時代もあり酒田港を活用しながら物流拠点と人の往来に今一度期待がかかる。近年外航クルーズ船が活況を呈している。酒田港への外航クルーズ船誘致に向けた取組状況はどうか？

商工労働観光部長 ①魅力ある観光地づくり、②継続的な誘致活動、③官民一体となった受入態勢づくり、を総合的に進めることが重要だと考えます。具体的に①は、「北前船」の往来によってもたらされたものが、酒田の伝統文化として引き継がれていますが、山形ならではの伝統文化や出羽三山の精神文化、食、祭り、温泉、さくらんぼ狩りなど他にはない観光資源を磨き、山形の魅力を最も活かせる時期を力強く発信していきます。②は、クルーズ船関係者の招聘や船会社主催の意見交換会への参加、海外商談会での情報発信を行います。③は、県民がおもてなしの心でお迎えする機運醸成へのシンポジウムや、歓迎行事、交流イベント開催など、官民一体となった受入態勢を整えます。

外航クルーズ船の誘致は、陸・空・鉄路に加え、新たに海路の活用による誘客促進・インバウンドの更なる拡大をもたらし得るものであり、新年度は新たな推進体制を整え、ハード・ソフト両面から強力に取り組みます。



日本遺産認定への取り組み強化を図れ！

菊池 日本遺産登録は2020年までに全国で100程度の認定を目指している。海外からの観光客にアピールできる日本遺産は本県への海外からの観光客増加や国内観光の大きな魅力発信につながる。伝承や伝説等の地域に根差した文化と地域の持つ文化財を活用しながら日本遺産登録に取り組むべきであるが取組状況はどうか？

教育長 本県からは「出羽三山」と「城下町鶴岡」をテーマに2件申請しています。「出羽三山」については、「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木にまつまれた2,446段から始まる出羽三山～」というタイトルで提出しました。地域の将来像としては、日本遺産の認定を通して、出羽三山周辺地域特有の歴史文化や自然の魅力を地域の人々が再認識し、誇りと愛着を育み、固有の伝統文化と歴史的な趣を守り伝えて行く気運を高めていきます。また、国際的な交流を拡大し、観光振興や地域経済の活性化を進め、自然と信仰が結びついた伝統文化が息づく地域を形成したい。この将来像を実現する為、認定後は海外に向けた情報発信、受入環境の整備、旅行プランの企画開発などについて一丸となって、インバウンド拡大に取り組んでいます。



地域防災力の充実・強化に向けて防災士の養成に力を！

菊池 地域防災力の充実・強化が叫ばれている現在、自主防災組織の強化と地域と公的機関の連携で地域防災の専門的な知識と技能を持つ担い手として期待がかかる防災士に県として養成事業を行っているが現在の取組状況や養成の状況はどうか？

危機管理監 自主防災組織の活発な活動を促進するため、組織の中核で率先して活動できる人材としての「防災士」の養成に取組むこととし、今年度から毎年130名の枠で養成講習会を開催し、今後3年間で1000名を超えることを目指しています。今年度は103名が受講し、全員合格。結果、今年度の資格取得者数は180名越えが見込まれ、県内防災士の数も増加しました。

来年度は130名の受講者を確保し、引き続き養成に取組みます。また、自主防災組織の「訓練実施に対する補助」の補助要件を取り組みやすくし、市町村への周知をしっかりと行い、事業を実施していきます。



がん検診受診率の向上に向け、体制整備を強化せよ！

菊池 がん・心筋梗塞・脳卒中は国民病と言われている。平成18年に「がん対策基本法」が成立し、がん検診受診率の向上やがん診療拠点病院を増やすことや緩和ケア研修会に参加する医師の増加に取り組んでいる。本県は全国的にもがん検診受診率は高いが現状はどうか。またがん検診の受診率の状況と目標達成に向けた取組状況はどのようになっているか？

健康福祉部長 本県のがん検診の受診率は、40歳以上で、胃がん54.8%、大腸がん48.9%、肺がん53.8%と全国一位、乳がん44.9%、子宮がんは20歳以上で44.8%と、全国2位です。目標値は、胃がん・大腸がん・乳がんは60%、肺がん・子宮がんは50%と定めており、達成に向け様々な取組を行っています。文書により個別に行うコールや、未受診者に再勧奨を行うリコールを行っています。また、大腸がん・乳がん検診においては、一定年齢の方を対象に無料クーポンを配布し、受診の動機づけを行うとともに、受診しやすい体制の整備も進められています。さらに、イベントやショッピングセンターでがん検診制度の周知と重要性を啓発しており、多様な取組が全国トップクラスの受診率につながっていると考えます。



子どもの頃からの「がん教育」を強力に推進すべき！

菊池 県内における教育機関におけるがん教育への取組状況はどうか？

教育長 子どもの頃からがんを正しく理解するなど、がんを取り上げた教育を推進することは大変重要です。現在、小学校5、6年生、中学、高等学校の保健の授業で、喫煙や飲酒による弊害に触れ、がんと生活習慣との関わりや予防する為の生活行動を学んでいます。また、学校の健康課題に応じ、専門医を派遣し、講演会を年50回程度実施しています。

「子どもの健康づくり連携事業」連絡協議会の中で、外部講師の活用なども含めた学校におけるがん教育の在り方について議論し、文部科省の事業の活用も図りながら、さらなるがん教育の充実に取り組んでいきます。



若年層の自殺対策の強化を図れ！

菊池 「地域自殺対策推進センター」の概要と自殺者対策への取組みはどうか？

健康福祉部長 本県の自殺対策については、近年はメールによる相談や「やまがたごころ元気サイト」を開発し、若年層対策を強化するとともに、自殺未遂者や家族への相談支援を開始するなどハイリスク者対策にも取り組んできた結果、やや改善しましたが、引き続きしっかり取り組んでいきます。今後は高齢化に伴う健康問題や、介護疲れによる高齢者や介護者の自殺を防止するための対策にも取り組んでいきます。

「地域自殺対策推進センター」は、県精神保健福祉センターに設置する方向で検討しています。自殺対策行動計画を策定し、地域の実情に応じた相談支援体制の整備を進めていきます。



「男性の介護」をはじめとした地域包括ケアシステムの構築に向け、取り組むべき！

菊池 少子・高齢社会を迎えた家族は超高齢化や単身高齢化となり老老介護が進んでいる。県内の介護における男女比は男性が3、女性が7の割合で男性が女性を介護する場面が多いのではないかと。その場面を考える「男の介護」の備えをするべきであるが取組状況はどうか。またそれらを想定した地域包括ケアシステム構築に向けた課題解決と取組状況はどうか？

健康福祉部長 県では、空き家等を活用して高齢者が担い手となる生活支援サービスの提供や介護予防活動などを行う拠点を創出するためのモデル事業や、サービス提供の中核的な担い手となる人材養成の研修会を開催し、市町村における事業の早期実施を後押ししているところです。今年度の研修会では、3割が男性参加者でしたので、男性の料理教室に活発に取り組み、単身高齢者宅や福祉施設等に出向いて活動している県外の例なども紹介し、男性を対象とした取組みへの意識付けも行いました。結果、実際に高齢者の通いの場づくりに着手した事例も生まれ、4月から12市町村が総合事業を実施する予定になっています。

多様なサービスの担い手養成をさらに進め、住民自らが担い手となる生活支援サービスの提供や介護予防活動を行う取組を促進し、地域の支え合いの体制づくりを積極的に支援していきます。

